

(様式第4号)

上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

1 会議名	上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
2 日時	令和5年1月24日 午後2時00分から午後3時20分まで
3 会場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員 21名 上田地域振興局企画振興課長、上田地域広域連合事務局企画課長（オブザーバー）
5 事務局出席者	上田市政策企画部長、上田市政策企画課、上田市連携事業担当課、東御市企画振興課、青木村総務企画課、長和町企画財政課、坂城町企画政策課、立科町企画課、嬭恋村未来創造課
6 公開・非公開	<u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	令和5年1月27日

協 議 事 項 等

1 開 会（上田市政策企画課長）
2 委嘱状交付
3 あいさつ（上田市長）
4 委員自己紹介
5 会長・副会長選出 ・会長に中村彰委員、副会長に井出進一委員を選出
6 議 事
(1) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの変更（案）について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・質疑等なし
(2) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・以降、協議
(委 員) 取組内容No.5「障がい児への支援体制の強化」では、保育士向けの支援スキル向上として、様々な研修の実施や、実習体制を整えていただいている。一方で、最近、保育士をはじめ、福祉分野でも人材確保が厳しい状況となっている。現状の支援スキル向上の学習会や研修の取組を進めていても、徐々に人材不足の問題は進んでいくのではないかと懸念している。連携会議等で情報交換をする中で、特色ある人材確保の方法についても是非協議をしていただきたい。 取組内容No.8「障がい児者の地域生活支援体制の整備」では、定着支援台帳の整備件数を成果指標としているが、まだまだ情報が行き届かない状況の中、この数値が伸びていかなければ、令和8年度の目標値である400件に届かないのではないかと懸念している。是非、それぞれの市町村においても定着支援台帳整備の推進について、事業者や市民の皆さんへ周知をし、目標を達成できるよう、活動を進めていただきたい。我々も協力をさせていただき、この目標を何とか達成していきたい。
(事務局) 障がい者担当保育士の研修等について、貴重なご意見いただいた。現在、来年度の入園調整を進めている中、特に保育士不足については実感しているところである。年々未満児の入所が増えており、少子化の中ではあるが、必要な保育士数は増えている状況であり、いかに保育士を確保していくかが、この地域のみならず全国的な課題となっている。特に発達の関係や障がいを持たれた方の支援も重要であり、個々の子への支援をしていくには保育士の確保が必要となる。非常に難しい問題ではあるが、保育士の資質向上を継続的に図るとともに、今後、保育士の確保についても構成市町村と連携、情報提供をしながら努めていきたい。

(事務局) 8050 問題をはじめ、障がい者の支援をしていくのは難しい時代となっている中、専門人材の確保については大きな課題だと認識している。しっかりとしたスキルを持った専門の方たちが支援することが重要であり、関係機関等と協力しながら研修会や情報共有をさせていただいている。引き続きのご協力をお願いしたい。

定着支援台帳の整備では、目標値として令和8年度に400件と謳っている。コロナ禍で孤立してしまう障がい者の方たちを支援する際にもこの台帳を活用してきている。コロナも災害の一種であり、自然災害と同様、「普通」と違うことが起きた際に、台帳により誰にどのような支援をする必要があるのかが分かり、とても重要なものとなっている。目標値である400件に届くよう取組を進めていきたいので、これからも情報共有等をお願いしたい。

(委員) 男女共同参画計画の推進について、どのような取組をしているのかお聞きしたい。議員をはじめ、団体等の役職に就く女性人材が少なく苦慮しており、何か案や意見等あれば教えていただきたい。

(事務局) 現在の共生ビジョンにおいては、男女共同参画についての取組は記載はされていないが、SDGs等の観点からも大事な取組であるため、構成市町村等と今後協議をしながら、進めていけるよう検討していきたい。

(委員) 上田圏域でも、小学校、中学校ともに不登校の子どもが増えている。取組内容No.9「不登校傾向児童・生徒の支援体制の充実」における情報交換会の開催等については、主に各市町村や学校の実態に応じて取り組んでいるが、より圏域全体での取組につなげていく必要がある。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの関係では、スーパーバイザーを配置するなど、本人たちの心理的なケアも含めた体制づくりが必要である。また、人材不足の改善についても市町村が主体となり進めていく時期にきているのではないかと考えている。定住自立圏でも「公立大学法人長野大学の活用と連携促進」に取り組んでいるが、長野大学では社会福祉士、精神保健福祉士の育成もしていることから、学生や教授の皆さんが日常的に小・中学校に入りながら、圏域の将来的な人材を育成していけるような取組も検討していただきたい。長野大学の活用をはじめ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの人材確保、養成について、さらに深めていけるよう取り組んでいただきたい。

(事務局) 不登校児童・生徒への支援は、全国的な課題であるが、上田市においても大きな課題である。少子高齢化により児童・生徒数は減少しているが、不登校児童・生徒の在籍率は増えているという現状はしっかり直視していかなければならないと考えている。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーについては、県教育委員会においても人数を増やすなど充実してきている。そのような中、この定住自立圏での取組において、県と同じことではなくこの地域だからできる特異性を出せるよう考えていきたい。学校現場への周知も含めて進めていきたい。長野大学との連携については事務的な協議をしており、小・中学校の時間と大学の授業の時間が重複している等の課題がある。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに対して、しっかりとした給与保障を構築していかなければ就職先としての道も開かれない。予算化と体制について考える時期がきており、構成市町村としっかり議論していきたい。

(会長) 概ね意見が出尽くしたと思われる。出された意見については、今後の取組や検討に活かしてもらうことをお願いし、議事を閉じさせていただく。

7 その他 特になし

8 閉会

(事務局) 貴重な意見をいただき感謝申し上げます。今後の取組に生かしていけるよう考えていきたい。この定住自立圏の取組は、関係市町村全てが生活圈を共にする地域だと思っており、行政が横の連携をとりながら全体のサービス向上を目指すことにより、圏域全体の底上げをしていく取組である。上田市としては、中心市としての役割を果たさせていただいているが、今後も中心になり関係市町村の皆さんと取り組んでまいりたい。共生ビジョンは毎年度の変更作業が必要であり、来年度も引き続き委員をお願いすることもあるかと思うので、よろしくをお願いしたい。